



# DANRYU

世界と鹿児島交流情報誌「暖流」 No.51 / March 2024

写真提供：屋久島町（宮之浦岳）

発行：（公財）鹿児島県国際交流協会 Kagoshima International Association

## 香港学生日本語研修受入事業



【鹿児島県庁での表敬訪問の様子】

令和5年7月17日から14日間にわたり、香港伍倫貢（ウーロンゴン）學院の学生12名が、日本語学習をはじめ、6泊7日のホームステイ、日本文化体験、社会科見学、大学訪問などを含む日本語研修に参加しました。浴衣着付け体験では、自分で浴衣を着付ける方法を習い、茶道体験では自分でお茶をたてました。社会科見学ではマルヤガーデンズ様にご協力をいただき、館内放送の体験や外壁緑地の見学をさせていただきました。また、待ちに待ったホームステイは「本当の家族のように迎えてくれて嬉しかった。」「もっと一緒にいたかった。」という声があがるほど充実した時間となり、楽しみながら日本の生活を味わうことができました。日本語講座の先生方、文化講座の先生方をはじめ、

本事業に関わってくださった多くの方々のおかげで、学生の鹿児島での生活は実り多いものになりました。

この彼らの貴重な経験が、これからの鹿児島と香港の友好関係の支えとなることを期待しております。

## 鹿児島県青少年国際協力体験事業



【ホームステイ先レンゴン村にて】

本事業は、鹿児島県の青少年を開発途上国に派遣し、ホームステイや学校等での交流を通して相互理解を深めるとともに、現地で途上国の国づくりに貢献している青年海外協力隊の活動現場の視察等とおして、国際協力に対する理解を深め、国際性豊かな人材を育成することを目的に、鹿児島県青年海外協力隊を支援する会、青年海外協力隊鹿児島県OB会、（公財）鹿児島県国際交流協会の三者で実施しております。平成3年にマレーシアに派遣して以来、30回にわたって7カ国に県下一円から今回の15名を含む376名の中高生を派遣してきました。今年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けたことから4年ぶりの

実施となりましたが、令和5年7月23日から30日までの8日間、中高生を本事業10回目の訪問となるマレーシアへ派遣しました。農村部でのホームステイでは、日本とは異なる生活環境や文化・言葉の違いに戸惑いながらも、現地の方々とのコミュニケーションを楽しみ、人々の温かさ、心の豊かさに触れることができました。また、派遣期間中に訪れた、小学校の巡回指導や中学校の体育指導をする協力隊員の活動視察では、異文化を受け入れ、その国に合った支援の在り方の大切さを学ぶ貴重な機会となりました。「現地で汗を流す協力隊員の言葉が忘れられない。今回の研修が、これからの自分を作り上げる大きな土台となることを確信した。」といった感想も見られ、発展途上国で活躍する協力隊員の姿は、生徒一人ひとりの心に深く刻まれたようでした。

## 全羅北道文化交流事業



【火山灰アート説明の様子】

鹿児島県と友好協定を結ぶ韓国全羅北道の国際協力振興院(旧 国際交流センター)の協力を得て、令和2年度から隔年で交互にお互いの地の文化・歴史や自然を学ぶ講座として開催しています。

事業開始以降初めて、全羅北道への訪問が叶った今回の講座は、令和5年10月22日、全羅北道にある全州旗接ノリ伝習館で実施しました。講座では33名の参加者に桜島と温泉を中心とした鹿児島を紹介し、火山灰アーティストの植村恭子氏が講師となり桜島火山灰を材料とするアート(絵画)体験をしていただきました。限られた時間でしたが、参加者からは「良い経験になった」、「面白い体験であった」、「次回の講座が楽しみ、鹿児島にも行きたい」などと好評でした。

令和6年度は鹿児島で全羅北道の文化等を紹介いたします。鹿児島の皆様に少しでも韓国・全羅北道の魅力が伝わり、交流のきっかけづくりになればと考えています。

## 『ブラジル鹿児島県人移民115周年及びブラジル鹿児島県人会創立110周年記念式典』



【ブラジル日本文化福祉協会前にて記念撮影】

『ブラジル鹿児島県人移民115周年及びブラジル鹿児島県人会創立110周年記念式典』がサンパウロ市のブラジル日本文化福祉協会大講堂で開催されました。今回の式典には鹿児島県からの訪問団38人を含む、近隣国からはパラグアイ、アルゼンチン、ペルー、南カルフォルニア鹿児島県人会、ニューヨーク奄美会などの代表者らが参加するなど総勢約600人が参加し、みんなで節目の年を祝いました。

当協会からも津曲貞利理事長をはじめ、当協会が事務局を兼ねている鹿児島県海外移住家族会の副会長として松下正専務理事も現地を訪れ、文岡正樹ブラジル県人会会長、元県費留学生・海外技術研修員らに記念品を贈呈し、交流を深めました。また、サンパウロ市の日本文化広報施設「ジャパンハウス」で、鹿児島県産品を紹介するイベント『KAGOSHIMA DAY』にも参加し、訪れた多くの参加者と交流を行いました。

## 国際交流プラザ20周年事業



【影絵を鑑賞している様子】

国際交流プラザがかごしま県民交流センターへ移転開設して20周年を迎えました。これを記念し、鹿児島県陶芸家協会と共催で『「ようこそ 喫茶とやきものへ」〜かごしまの焼物で、味わう世界のお茶会。』を開催しました。

この企画は、「お茶」を通して、各国の文化理解を深め、県陶芸家協会の会員が作成した茶器等で鹿児島の焼物の素晴らしさを体験してもらおうというものです。イギリスはTEALAN 薩摩英国館館長の田中真紀氏に、中国は中国語講師のテン・スーペイ氏にベトナムは当協会の生活相談専門員の

ブー・テュー・リエン氏に、台湾は台湾文化協会のテン・ユィティン氏にお茶の紹介や実演をしていただきました。また、中秋の名月とも重なったため、黎明館の前庭においてお月見の会を開催し、在住外国人と日本人と一緒に満月を愛で、各国の月にまつわる話をしたり、NPO法人いきがい支援センターチロリン村の山口政芳氏にバルーンアートを御披露いただいたりしました。参加者からは「試飲だけではなく、文化も知ることができ良かった。」「またこのような体験型の講座に参加してみたい。」などと感想をいただき、それぞれの国の文化について理解を深めることができたようです。



【中国茶を試飲している様子】

## 災害時外国人支援ボランティア養成講座



【通訳訓練（対面版）の様子】

避難所を想定した通訳訓練を行いました。

参加者からは「通訳・翻訳は単純にことばを訳すだけでなく、災害時に心に寄り添う姿勢も大切だということを改めて理解できました。」などの感想がありました。

今回の事業をとおして今後も災害時のみならず、平時においても外国人に対する支援の意識を拡げていただくことを期待しております。

鹿児島県で大規模災害が起きた場合、日本語がわからず地震などの災害経験のない外国人の方が必要な情報を的確に把握することが困難になることが予想されることから、昨年度に引き続き外国人を支援するボランティア養成を目的とした講座を対面版とオンライン版で開催いたしました。

講座前半では箕面市国際交流協会の岩城あすか氏より、災害時に外国人が直面する状況と対応を学び、避難所に送られてくる多くの情報の中から必要なものを翻訳する訓練を行い、後半では実際の避難

## 災害時に助け合えるまちづくり事業



【講座の様子（大崎町）】

難場所・避難経路を確認しました。

参加者からは、「普段から外国人に対してわかりやすく伝えることを学びました。」「日本に住んでいるので災害や防災の知識を身につける必要性がわかってきました。」などの感想がありました。

今回の事業が平時からの顔の見える関係づくりのきっかけとなり、災害時における外国人支援につながることを願っております。

令和6年度2月に、屋久島町及び大崎町にて、地域在住の日本人及び外国人を対象とした『災害時に助け合えるまちづくり事業』をそれぞれの町との共催で開催しました。両講座合わせて日本人42名、外国人25名の参加がありました。

講座では、在住外国人向けに鹿児島の災害や防災対策について学ぶ基礎講座を、在住外国人支援者向けには外国人へのやさしい日本語講座を実施しました。

また外国人と日本人合同のワークショップ講座では、非常持ち出し袋の確認や、ハザードマップを見ながら居住地域の危険箇所や避

## 鹿児島で世界を語ろう！第29回外国人による日本語スピーチコンテスト



【本選出場者10名】

聴衆の皆さんも心を掴まれていたようでした。今後も一人でも多くの県民の皆さんに、国籍や文化の違いを越えた国際交流の場を提供していきたいと思ひます。

38名(9カ国・地域)の県内在住の外国の方が予選に出場し、その中から10名(5カ国・地域)が、令和6年2月3日に行われた本選で発表しました。『村で初めて留学した女の子』というタイトルでスピーチをしたネパール出身で九州日本語学校のネパールギタさんが最優秀賞を受賞しました。彼女が日本・鹿児島に来るまで、そして今、これからの彼女が挑むことに関して堂々としたスピーチを披露し、174名の聴衆を惹きつけていました。

学んできた日本語で自身の経験や思いを堂々と語る出場者の皆さんの姿は、これまで日本で頑張ってきた様子を如実に物語っており、

## 日本語・日本文化等理解講座



【自分で書いた詩を発表する様子】

鹿児島で生活する外国人が、生活に役立つ日本語や日本人の習慣などについて学ぶ「在住外国人のための日本語・日本理解講座」を令和5年5月から令和6年2月まで全60回(水曜昼間クラス30回、木曜夜間クラス30回)そして8月にオンライン日本語講座を5回実施しました。

対面講座では、2～3クラスに分かれて、普段の生活でつかう言葉を学び、自分の気持ちを詩にして表現したり、ご自身の国について紹介するプレゼンテーションをしたりと、様々な側面から日本語を学び

ました。

また、オンライン講座では県内各地域の方が参加し、それぞれの地域について話をするなど対面の講座では得られない経験ができました。

受講生からは、「実用的で生徒に関連のあるトピックを選んでくれたので便利な表現を学ぶことができた」、「もっと勉強して日本語を話せるようになりたい」などの意見をいただき、日本語学習に意欲的に取り組んでいる様子が伝わってきました。

## 日本語教育人材養成事業



【やさしいにほんごについての講座の様子】

在住外国人が生活に必要な日本語能力を身に着けることを支援する人材を養成することを目的に、令和5年11月から令和6年2月まで日本語ボランティア入門講座を3回、スキルアップ講座を6回、そして日本語教師スキルアップ講座を2回行いました。

講座には離島を含む計31名の方が参加しました。ボランティア入門講座では、県内に住む在住外国人のことや、多文化共生について、スキルアップ講座では日本語支援におけるポイント、やさしいにほんごについて学び、実際に鹿児島県内に在住の日本語学習者を招いてやさしいにほんごでの会話に挑戦しました。また、教師スキル

アップ講座では、現在日本語支援に携わっている方々が、支援をしていく中での成功体験や課題を共有しました。

参加者からは「やさしいにほんごを使って会話をするのは想像以上に難しかった。今回の経験を活かして普段からどのような表現をすれば学習者が理解しやすくなるかを考えて過ごしたい。」「日本語を外国語として学んでみると想像より難しかった。教える際には外国人の立場に立って考えたい。」などの感想が寄せられました。今後鹿児島で生活する在住外国人への日本語支援にぜひ携わっていただきたいです。

## 日本語サロン おしゃべりひろば



【茶葉の焙煎を体験している様子】

日本語の日常会話が可能外国人を対象に、ネットワークづくりや日本語の上達を目的とした『日本語サロンおしゃべりひろば』を全4回開催いたしました。

今年度は日本文化をテーマに、ゲストを中心として様々な文化や習慣があることを紹介し、また、自国の文化と比較しながら色々な国の参加者が意見交換をしました。お茶の文化を紹介する『あなたの知らない“お茶”の世界』では、参加者が持ち寄った各国のお茶を試飲・説明しながら、互いの文化に触れあう交流の場となりました。

参加者からは、「色々な人と交流ができて視野が広がった。」「日本文化を深く知るいい機会になりました。」という声が寄せられました。今後おしゃべりひろばをきっかけに参加者同士の輪が広がり、日本語学習の意欲に繋がっていくことを期待します。

## 英語絵本のよみかたり



【英語絵本よみかたせの様子】

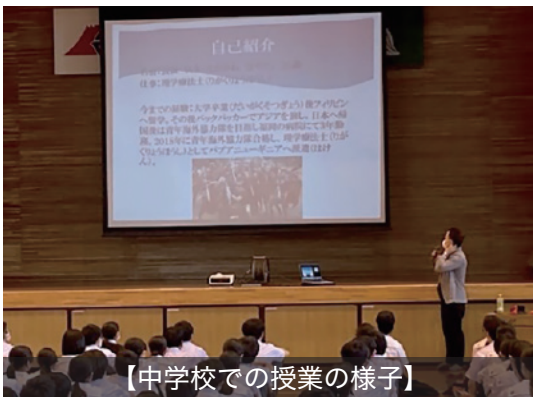
『英語絵本のよみかたり講座』は、3歳から5歳までの幼児期の子どもとその保護者を対象に英語に慣れ親しむ機会を提供するとともに、英語への関心を高めることを目的に実施しています。

今年度は、鹿児島市内で2回、出張講座としてさつま町、志布志市、薩摩川内市、いちき串木野市、奄美群島(大和村・喜界町)で各1回、合計8回開催しました。

本講座では絵本の読み聞かせをはじめ、英語の歌やゲーム、工作等を実施するとともに、講師と子ども一人ひとりがコミュニケーションを取ることを心がけました。保護者からは「先生が目線と笑顔を向

けてくれて、話しかける勇気が出るまで待ってくれたおかげで、「Hi」と一言話すことができました。」「先生の絵本の読み方が上手で、子供達が心を惹きつけられてすごく楽しそうでした。」という感想も聞かれました。

## 協力隊OBと留学生が先生事業



【中学校での授業の様子】

鹿児島県青年海外協力隊を支援する会、青年海外協力隊鹿児島県OB会と当協会の3者で実施しているこの事業は、年間約40校の小・中学校に青年海外協力隊として活動していたOBや県内に在住する留学生などの外国人を講師として派遣しています。

この事業は、OBによる海外での活動体験の話や留学生などとの交流により、国際協力・国際理解を学ぶことを目的にしており、実際に、現地のお金や楽器を実際に触ったり、民族衣装を着てみると、教科書だけでは知り得ない事柄を紹介しました。

今年度実施した40校の約2,150名の児童・生徒からは「自分のあたりまえが他の国では当たり前ではないと気づいた。」「大人になったら協力隊として海外で活躍したい。」などの感想をいただきました。

この事業が、国際理解教育としてだけでなく、自分の将来について考える良い機会となっているようです。

## ベトナム理解講座



【講師による料理紹介】

当協会では、県内在住外国人のうち人数が1番多い国ベトナムについて、ベトナム出身者を講師として民族・文化・生活・言語等多岐にわたる実情を学び、ベトナムへの理解を深める講座を開催しています。

今年度は、かごしま県民交流センター調理室で、ベトナムの料理教室を開催し、26名の参加がありました。

講座ではまず、ベトナム人講師からベトナムの生活、文化、ベトナム語の挨拶などを紹介しました。次に、参加者を5班に分け、ベトナム

人ゲスト5名が加わりベトナムの料理であるバインミーシュウマイ、里芋チャーを協力し合いながら作りました。最後に、出来上がったベトナム料理を試食しながらベトナムのことについて話し合いました。参加者からは、「ベトナムについて興味が深まりました。」「ベトナムに行ってみたい。」等の感想をいただきました。

参加者の皆様にとって、ベトナムについて理解を深め、また身近にいらっしゃるベトナム出身者とのコミュニケーションを図る際の参考となったのではないのでしょうか。

## JICA 情報

JICA 海外協力隊

### 『信頼で世界をつなぐ』

JICA(国際協力機構/ジャイカ(注))は、日本の政府開発援助(ODA)を一元的に行う実施機関です。(注)JICAは、Japan International Cooperation Agencyの略称です。

開発途上国のニーズや、課題の解決に向けて、無償資金協力、有償資金協力、技術協力の手法を組み合わせ、様々な取組を行っています。



### ■ JICA 海外協力隊

JICA 海外協力隊とは、開発途上国からの要請に基づき派遣され、現地の人々と共に途上国の課題解決に取り組むことを目的としたボランティア事業です。

これまでに本県から約1,000名が派遣されており、派遣中のみならず、帰国後も各分野での活躍が期待されています。JICA 海外協力隊は、20歳から69歳の方ならどなたでもご応募頂けます。ご自身の知識と経験を途上国の課題解決に役立ててみませんか？

詳細は、HP もしくは、JICA デスク鹿児島まで、お問合せください。



いつか世界を変える身になる。  
JICA 海外協力隊

鹿児島県国際交流協会には JICA 事業の窓口として「JICA デスク鹿児島」があります。

< JICA デスク鹿児島 > TEL : 099-221-6624 E-mail : jicadpd-desk-kagoshimaken@jica.go.jp

## 国際交流プラザのご案内



- ・ イベント情報等の掲示板
- ・ 国旗、民族衣装の貸し出し
- ・ 外国語新聞、図書、雑誌等の閲覧

ワールドトークサロン

英語・韓国語・中国語によるフリートーキング懇談会

○国際交流に関するご質問や、ホストファミリー・語学ボランティアの登録については、随時受け付けております。  
お気軽にお立ち寄りください。

## 外国人相談窓口

外国人総合相談窓口では、県内にお住まいの外国人の方々からの各種相談に応じています。

○相談方法：面接、電話、メール、Facebook メッセンジャー

TEL : 070-7662-4541 Email : kiasoudan@gmail.com

○相談窓口 Facebook : <https://www.facebook.com/Kiasoudan>

○対応言語：23言語 日本語、英語、ベトナム語は相談窓口で対応します  
その他の言語は、多言語コールセンターを活用します。



相談窓口 Facebook  
QR コード



【外国人総合相談窓口】

【国際交流プラザ、相談窓口、本誌に関する問い合わせ先】 公益財団法人 鹿児島県国際交流協会  
〒892-0816 鹿児島市山下町14番50号 カクイックス交流センター(かごしま県民交流センター)1階  
TEL: 099-221-6620 / FAX: 099-221-6643 E-mail: kia@kiaweb.or.jp

HP: <https://www.kiaweb.or.jp> Facebook: <https://www.facebook.com/Kagoshima.Intl.Assoc/>

《開館時間》9:00 ~ 17:00(火曜日~日曜日) 《休館日》月曜日(但し祝日の場合はその翌日)/ 年末年始(12月29日~1月3日)

